

令和元年度 横川西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

生きる力を育む教育活動を通して、心身共に健康で、自ら学ぶ意欲をもち、心豊かな児童を育成する。

児童目標【げんきで かしく やさしい子】

- ◇ 健康で、がんばる子ども
- ◇ よく考え、すすんで学ぶ子ども
- ◇ きまりを守り、思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

互いに成長し合い、一人一人が輝ける学校

子どもたち一人一人が、学校で学ぶ楽しさ(学習・生活)を実感し、自他を大切に互いが成長し合える学校づくりを目指す。

【目指す学校像】

- 子どもたち一人一人に **学ぶ楽しさがある学校**
- 子どもたち一人一人が自他を大切に **成長し合える学校**
- 全職員が明るく元気に **励み合う学校**
- 家庭や地域に **信頼される学校**

【目指す教職員像】

- 教育的愛情と真の優しさ、厳しさをもって **子どもと共に行動する教職員**
- 同調性と協働性をもち、**学び合い向上する教職員**
- 保護者や地域と **心を繋ぐ教職員**

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 一人一人の「わかる、できる、楽しい」学びの実感がもてる授業づくりに努める。
- (2) 当たり前のことが自然にできる、一人一人の心づくりに努める。
- (3) 自他の生命を尊重し、自ら進んで体力づくりに励み、逞しく生きる人づくりに努める。
- (4) 全教職員の共通理解のもと、一人一人を大切にしたい児童指導の充実に努める。
- (5) 家庭・地域と協働して子どもたちを育てる信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が同僚性と協働性をもち、各々のよさが発揮できる組織づくりに努める。
- (7) 教職員が、心身の健康管理に留意するとともに、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【陽南地域学校園教育ビジョン】

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの自主的な活動を通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 本年度の学校教育目標、経営方針の示すところにより、学校の実情、児童の実態を考慮し、特色ある学校づくりが実現できるよう編成する。
- (2) TTや習熟度別学習、教科担任制を取り入れ、「個に応じた指導」「楽しくわかる授業」を展開し、基礎的・基本的な事項の確実な定着が図れる教育課程編成に努める。
- (3) 地域の自然、文化、伝統などの教育資源を有効に生かす教育活動を編成する。
- (4) 児童一人一人の自己肯定感が高められるよう、学校教育活動全体を通し育成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

互い（児童・教職員）が成長し合い、一人一人が輝ける学校づくりの推進。

○真の優しさと厳しさをもち、児童・保護者・地域を愛し、共に行動する学校を目指す。

(2) 学習指導

○学ぶ楽しさを実感し、主体的に学びに向かう児童の育成を目指す。

- ・ 基礎・基本の確実な習得と活用を目指す授業づくりの推進
- ・ 「学習を見通し振り返る場、対話し学び合う場、考える場・教える場」の設定や組み立てを工夫し

充実させる学習計画 (3) 児童生徒指導 ○互いに他を思いやり、きまりを守る児童の育成を目指す。 ・児童の特性の理解と対応、いじめの早期発見・早期解決、自己肯定感を高める工夫 (4) 健康（体力・保健・食・安全） 児童一人一人が、自己の健康・体力に応じて取組み、充実感や達成感を味わえる保健学習・教科体育の実践を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 教職員・児童 ⇒肯定的回答90%以上 保護者 ⇒肯定的回答85%以上	① 学習課題の提示の仕方や教材を工夫する。 ・児童が興味・関心をもって取り組めるような学習活動の工夫・改善を推進する。 ② 基礎基本の確実な定着を図る ・少人数指導・習熟度別学習等の工夫をする。 ・学習形態を工夫し、ペアやグループなどの活動を積極的に取り入れる。 ・発表や話し合いの仕方、ノートの活用法等を系統的に発展的に指導していく。 ・全校体制で朝の学習の充実を図る。	B	【達成状況】 児童 89.0% 教職員 89.3% 保護者 87.6% 【次年度の方針】 児童、教職員の肯定的回答がわずかではあるが数値目標を下回った。今年度は、具体的な取組として挙げた②の取組が十分でなかったことが原因だと考えられる。次年度は、年度当初の段階から、特にノートの活用について系統的に発展的に指導できるように全職員で共通理解をしっかりと図り、全校体制で取り組む。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・保護者 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 道徳教育の充実を図る。 ・全学級とも授業参観時に、道徳授業を公開する。 ・教育相談やQ Uを実施して、児童の考えや悩みを適切に捉え指導にあたる。 ・児童からの悩み相談に対しては、学級担任、学年、学校全体で支援にあたる。 ・児童が明るく生き生きと活動に取り組めるよう、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などの実施方法を工夫する。	B	【達成状況】 児童 84.5% 保護者 83.2% 【次年度の方針】 児童、保護者共に肯定的回答が数値目標を下回った。数値目標を下回った原因として自尊感情の低下が一つと考えられる。次年度は帰りの会での認め合い活動の流れを全職員で共通理解すると共に、縦割り班活動にも認め合い活動を取り入れる。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童・保護者・地域 「児童はきまりやマナーを守って生活をしている。」 ⇒肯定的回答80%以上	① 基本的生活習慣と規範意識を育成する。 ・「横西小よい子の一日」の中で守れていない事柄について取り出し、学校全体で同歩調での指導を行う。 ・生命や人権の尊重・規範意識の向上を題材とした授業（道徳・学級活動等）を実施する。	A	【達成状況】 児童 79.3% 保護者 85.0% 地域 100.0% 【次年度の方針】 児童の肯定的回答が数値目標をわずかに下回った。原因として「横西小よい子の一日」の周知徹底が図られていないことにあると考えられる。次年度は、重点化した5つのきまりを重点週間などを設けて学校全体での共通理解を進めていく。また、週番から月間目標を児童に周知するよう取り組む。

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童・保護者・地域 「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」 児童・地域 ⇒肯定的回答90%以上 保護者 ⇒肯定的回答80%以上	① 児童の創意を生かしたあいさつ運動の推進を図る。 ・家庭・及び地域協議会と連携した地域ぐるみの「あいさつ運動」を実施する。 ・児童会だより等で「あいさつ強化週間」を家庭や地域に発信し、地域ぐるみで育成を図る。 ・あいさつ標語の作成方法、掲示の仕方を工夫する。 ・「横西っ子5つのきまり」の中の一つに「いつでもあいさつ」を位置づけ、根気強く声掛けを行い、習慣化するようにするとともに、教職員が率先遂行する。	【達成状況】 児童 88.0% 保護者 74.5% 地域 88.0% 【次年度の方針】 児童、保護者、地域のすべてにおいて肯定的回答が数値目標を下回った。次年度の取り組みとして、全児童があいさつ運動に関わることができるように取り組みを強化すると共に教師からのあいさつの率先遂行を全職員で継続していく。登校班の班長に対して班長会議を行い地域へのあいさつの重要性を理解させ、あいさつの良さを考えさせる時間を設ける。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・保護者 「私（児童）は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 児童 ⇒肯定的回答90%以上 保護者 ⇒肯定的回答80%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	【達成状況】 児童 86.8% 保護者 69.2% 【次年度の方針】 児童の肯定的回答はわずかに下回り、保護者の回答は大きく下回った。次年度の取り組みとしては、今年度と同様に目標をもたせ取り組みを支援することで達成感を味わわせる機会を通し、将来への希望や具体像を描かせせることで取り組む姿勢を育成していく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童・保護者 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 児童 ⇒肯定的回答90%以上 保護者 ⇒肯定的回答80%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行う。 ② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	【達成状況】 児童 90.9% 保護者 78.5% 【次年度の方針】 保護者の肯定的回答が数値目標をわずかに下回った。児童の生活の実態を把握するため、発達の段階に応じた内容で調査を実施し、自分の生活を振り返り、より健全な生活を送ることができるようにする。生活習慣の改善には保護者の意識や生活スタイルの改善も必要であるため、保護者との情報共有など連携して指導を行う。 さらに、児童が日常生活および災害発生時に、適切な意思決定と行動選択ができるが力を身に付けることができるよう安全に関する取組の充実を図る。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 児童・保護者 「私（児童）は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 児童 ⇒肯定的回答90%以上 保護者 ⇒肯定的回答80%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	【達成状況】 児童 86.8% 保護者 69.2% 【次年度の方針】 児童の肯定的回答はわずかに下回り、保護者では大きく下回った結果となった。次年度は、学級活動で使うキャリアシートを活用することで勤労観や職業観を学年の発達段階に応じて育めるようにする。 奉仕活動の意味や意義について理解を深めることで地域とのつながりや異学年とのつながりが意識できるように努める。
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員 「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 児童・教職員 ⇒肯定的回答90%以上	① 外国語活動（英語活動）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動（英語活動）に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	【達成状況】 児童 87.0% 教職員 78.6% 【次年度の方針】 児童、教職員ともに、数値指標を下回った。具体的な取組として挙げた外国語活動に関する校内研修や授業を見合う機会がもてなかったことが原因と考えられる。次年度は、取組として挙げたことをきちんと実施できるように、年度当初の校内研修に忘れずに外国語活動に関する研修を組み入れる。また、授業を相互に見合う職員間の雰囲気づくりに努めていく。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・保護者 「私（児童）は、宇都宮の良さを知っている。」 児童 ⇒肯定的回答90%以上 保護者 ⇒肯定的回答80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 児童 78.3% 保護者 47.7% 【次年度の方針】 児童、保護者とも肯定的回答の割合が数値指標を下回っている。次年度から取り組む「宇都宮学」について教師がしっかり理解をし、取り組んでいくことで、児童が宇都宮の良さを実感できるようにしていく。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童・保護者 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童 ⇒肯定的回答90%以上 保護者 ⇒肯定的回答80%以上	① ICTを活用した教育活動の充実を図る。 ・パソコン等の活用により、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報活用能力の育成を図る。 ② 学校図書館の学習センター・情報センターとしての機能の充実を図る。 ・学校図書館司書と連携し、学習に必要な図書を充実させるとともに、ICT機器や学習に必要なスペース及び備品などを整備し、学校図書館を活用した主体的な学習を行う。	【達成状況】 児童 80.8% 保護者 63.0% 【次年度の方針】 数値指標が、児童・保護者ともに下回った。とりわけ、保護者の肯定的回答の割合が大きく下回ってしまっている。今年度は全学年とも学校図書館を活用して、必要な資料を準備し活用してきた。しかし、そのことが保護者に十分に伝わっていないことが考えられる。次年度は、学習の様子について懇談会で保護者に伝える等、活用していることを伝えていきたい。また、次年度はタブレットが導入されるので十分に活用していきたい。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童・保護者 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 高齢者と触れ合う機会の充実を図る。 ・生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて、高齢者を講師として招いたり高齢者にインタビューする学習活動を設定したりするなどして、高齢者の知恵や人生経験に学ぶ機会を設定する。 ・高齢者を運動会やオープンスクールへ招待するなど、高齢者と交流する機会を設定する。	【達成状況】 児童 84.5% 保護者 83.2% 【次年度の方針】 児童・保護者共に肯定的回答が数値指標を下回った。次年度の取り組みとして、学級活動や普段の生活の指導で言葉について考える機会を取り入れ相手の気持ちを考える活動を通して自分の言動についてふり返る時間を設けることで相手を思いやる心を育む。 道徳の授業を通して高齢者や障害者に対して理解を深められるように手立てを行う。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心を持っている。」 教職員 「児童は、「持続可能な社会」について、関心を持っている。」 児童・教職員 ⇒肯定的回答90%以上	① 各教科等において、学習指導要領等の趣旨を踏まえ、「持続可能な社会」を見据えた授業の充実を図る。 ・6年総合「子ども会議」 ・5年総合「エソジマモチ」 ② 各教科等の授業と学校行事や体験活動、地域社会との連携などを、「持続可能な社会」の視点から関連付け、特色のある教育活動を展開する。 ・「きみの横西」 ・児童会活動「牛乳パック・エコキャップ回収」	【達成状況】 児童 83.6% 教職員 35.7% 【次年度の方針】 児童の肯定的回答の割合は数値指標をわずかに下回ったが、教員の肯定的回答は大きく指標を下回った。教職員の肯定的回答の低さは、「持続可能な社会」についての理解が十分でなかったことに起因すると考える。そこで次年度は、職員研修などを通して「持続可能な社会」について全職員で共通理解を図る。 また、避難訓練や総合的な学習の時間から「持続可能な社会」と関連付けられる部分を取り上げ考える機会を意図的に設けることで児童の関心を向けるようにする。
B1(A26) 児童は、自分の健康保持や、安全を考えて行動している。 【数値指標】 児童 「わたしは、自分がいつも健康でいられるように、また、けがをしないように考えて行動している。」 保護者・地域 「児童は、自分の健康保持や、安全を考えて行動している。」 ⇒肯定的回答80%以上	① 健康教育の充実を図る ・常に健康で過ごすためにどうしたらよいかを考えさせ、自分から率先して行動できるように指導していく。 ・うがい、手洗い等の励行やハンカチ、ちり紙の携行、教室の換気をする。 ② 安全教育の充実を図る。 ・危険予知能力を高めるため、日頃から安全な生活について指導する。 ・室内での過ごし方、廊下の歩行や校庭での遊び方など、「横西小よい子の一日」を活用して指導していく。 ・交通事故予防、特に自転車の乗り方について、保護者への協力を依頼する。	【達成状況】 児童 87.2% 保護者 70.3% 地域 100.0% 【次年度の方針】 保護者の肯定的回答が数値指標を大きく下回った。児童が家庭でも積極的に体を動かしたくなるように教科体育の中で運動の喜びを味わわせる授業を展開する。また、各種検定や運動イベントを活用し児童が進んで運動に取り組もうとする環境を整える。さらに、家庭への情報提供を行い、学校での取組を保護者に積極的に伝えていく。
B2(A27) 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値指標】 児童 「わたしは、宿題や自主学習を、目標とする時間以上にやっている。」 保護者 「児童は、宿題(自主学習)を含めた家庭学習を目標時間以上やっている。」 児童 ⇒肯定的回答85%以上 保護者 ⇒肯定的回答60%以上	① 家庭学習の習慣が身に付くよう個々に指導を進めていく。 ・「陽南地域家庭学習のヒント集」に基づき、発達段階にあった家庭学習の時間の確保を図ったり、課題の内容を充実させたりして基本的な学習態度の定着に努める。 ・学習をしてきた内容に対して、認め励まし、意欲が持続するような手立てを工夫する。 ・懇談会や個人懇談などで家庭学習の大切さなどに係る保護者への継続的な意識啓発を行い、協力を要請する。	【達成状況】 児童 74.3% 保護者 50.0% 【次年度の方針】 児童、保護者ともに数値指標を下回ってしまっている。宿題として出されたものは、提出できている児童が多いことから、目標とする時間以上取り組めていないことが分かる。そこで、次年度は、学級の実態を把握し、多くの児童が目標時間を達成できるような適切な量の宿題を出すようにしたい。また、家庭学習については、保護者の協力が必要なところであるので、懇談会や個人懇談での意識啓発をさせていきたい。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒肯定的回答90%以上	① かがやきルームにおける指導の充実を図る。 ・校内支援委員会で具体的な指導目標や指導の手立てを設定する。 ・学級担任とかがやきルーム指導員が直接話し合ったり、指導記録を交換したりして連携を強化する。 ② 特別支援学級における指導の充実を図る。 ・児童の実態をより詳細に把握し、一人一人障害特性に応じた指導を行う。 ・保護者や関係職員と丁寧に連絡を取り合いながら、交流及び共同学習を積極的に推進する。	【達成状況】 教職員 96.4% 【次年度の方針】 ・校内支援委員会で具体的な指導目標や指導の手立てを設定し、全職員共通理解で指導に当たるようにする。また、かがやきルーム指導員と指導記録を交換し連携強化を一層図る。 ・特別な支援を必要とする児童の実態を的確に把握し、特別支援学級での指導の充実を図れるようにする。さらに、保護者や関係職員と丁寧に連絡を取り合いながら、交流及び共同学習を積極的に推進する。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 保護者・地域 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答80%以上	① 「横西小いじめ防止基本方針」に基づき、全職員で指導に当たる。 ② 日常の児童の言動に気を配り、小さいいじめも見逃さず、いじめは許されない行為であることを指導し、未然防止に努める。 ③ いじめゼロ集会での取組について、児童会だよりで子どもたちから発信したり、いじめ標語を昇降口に掲示したりする。 ④ 学校のいじめ防止対策について、保護者・地域に対し啓蒙を図る。	【達成状況】 児童 97.1% 保護者 76.4% 地域 100.0% 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、次年度は、「学年だより」で、いじめ対策の一つである「いじめゼロ集会」や「いじめゼロ標語」、道徳での授業の様子などを紹介することで、さらにいじめの未然防止の取組の啓蒙を図っていく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童・保護者 「先生方(教職員)は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒肯定的回答80%以上	① 別室登校支援の充実を図る。 ・かがやきルーム教室後方を活用した別室登校支援を積極的に行う。 ・「街の先生」や「別室登校支援ボランティア」等の活用により多様な対応ができるようにする。 ② 児童の状況にあった支援策を検討する。 ・児童の欠席状況等を把握し、ケース会議等で学校の支援の方針を話し合い、共通理解を図りながら、学校全体で組織的・計画的に支援を行う。 ・学校の支援方針について保護者の理解と協力を得ながら、同じ目標に向かって支援を行う。	【達成状況】 児童 95.9% 保護者 85.2% 【次年度の方針】 ・かがやきルーム教室後方を活用した別室登校支援を積極的に行ったり、「街の先生」や「別室登校支援ボランティア」等を活用したり、多様な対応を次年度も生かすようする。 また、児童の欠席状況等を把握し、ケース会議等で学校の支援の方針を話し合い、共通理解を図りながら、学校全体で組織的・計画的に支援を行っていく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 外国人児童の受け入れ態勢づくりに努める。 ・外国人児童の編入学における校内の受け入れ態勢を整える。 ・保護者、日本語ボランティア、関係機関との連携体制を確認する。	【達成状況】 教職員 96.4% 【次年度の方針】 ・外国人児童の受け入れ態勢を整備し、外国人児童の編入学における校内の受け入れをスムーズに行う。 また、必要に応じて保護者、日本語ボランティア、関係機関との連携ができるようにする。

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童 「私は、今の学校が好きです。」 保護者・地域 「学校全体に活があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 適正な学校運営に努める。 ・学校評価を生かした保護者・地域と一体化した活気ある学校づくりの推進 ・主体的に活動する児童への適切な支援 ・担任と一緒に学級集団で遊ぶ時間を設けるなど児童一人一人を大切にしたい居がいの学級づくり	B 【達成状況】 児童 87.0% 保護者 86.4% 地域 100.0% 【次年度の方針】 ・校内外における挨拶指導を徹底するとともに、教職員が一人一人を大切にしたい学校づくりや学級経営に取り組み、次年度は、個々の児童の困り感に対し、より丁寧に対応できるよう、家庭と連携を図っていく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒肯定的回答90%以上 保護者 「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 ⇒肯定的回答85%以上	① 学習指導の工夫・改善を図る。 ・明確なめあての提示、板書の工夫等指導方法の改善を図る。 ・思考力を育てるための書く活動を重視した授業づくりをする。 ・TT指導や少人数指導、習熟度別学習等を効果的に実施する。 ・かがやきルームの有効的活用及び指導体制の充実を図る。 ・授業力向上のため校内研修充実を図る。 ・一人一授業を実施するとともに、充実した授業研修会を行う。 ② 学校での指導の様子を、家庭や地域へ発信する。(学校便り、学年だより)	B 【達成状況】 児童 95.1% 保護者 81.7% 【次年度の方針】 ・児童の肯定回答の割合は達成していたが、保護者の肯定回答は達成しなかった。次年度も、習熟度別学習やTTの授業を継続する。また、保護者の方へ「学年だより」で授業に取り組む具体的な姿をお伝えすることで教職員の取組について知ってもらえるようにしていく。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 多様な専門スタッフと連携し、児童への指導・支援の充実を図る。 ・学校図書館司書、学校栄養職員、かがやきルーム指導員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携した取組を充実させる。	B 【達成状況】 教職員 85.7% 【次年度の方針】 多様な専門スタッフと連携し、児童への指導・支援の充実がはかれてきたが、学校図書館司書、学校栄養職員の活用は、年計等に位置付けるようにする。かがやきルーム指導員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携した取組をさらに充実させる。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革の推進 ・管理職は教職員の毎月の時間外勤務の状況を正確に把握し、時間外勤務時間数に応じて、個別の面談や医師による健康相談を促す。 ・教職員は、自分にできることを常に意識して勤務するとともに、「何時まで」「どこまで」などの個人目標を設定して、長時間労働にならないようにする。	B 【達成状況】 教職員 75.0% 【次年度の方針】 教職員の勤務時間を意識して、ポータルサイト等を活用し業務の効率化に取り組む。教職員は、自分にできることを常に意識して勤務するとともに、「何時まで」「どこまで」などの個人目標を設定して、長時間労働にならないように意識して勤める。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 保護者・地域 「学校は小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 義務教育9年間を通した系統的な指導を行う「小中一貫教育カリキュラム」を推進する。 ・カリキュラムの地域学校園化・事項化を進める。 ・地域学校園で授業の決まりを設定するなどして学習の基盤を整える。	【達成状況】 児童 89.3% 保護者 81.9% 地域 100.0% 【次年度の方針】 陽南中との相互乗り入れ授業を始め、「あいさつ運動」など多くの活動において小中一貫教育を行うことができた。学校だより等でさらに紹介することで、保護者や地域への周知を図る。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 保護者・地域 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 地域人材の活用や企業の専門性を生かした学習を推進する。 ・上下水道局、税務署、(株)SUBARUなど、専門分野の企業、地域の企業等と連携した授業を計画的に行う。 ・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動を充実させる。 ・地域の「見守り隊」「自治体」「育成会」「老人クラブ」等との各団体との連携・協力を推進する。	【達成状況】 児童 89.6% 保護者 83.7% 地域 92.9% 【次年度の方針】 地域の「見守り隊」「自治体」「育成会」「老人クラブ」等との各団体との連携・協力を推進してきたので、おおむね数値指標の達成に近づいたが、地域人材バンクを作成し、さらに企業等の活用を推進する。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 児童 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 保護者・地域 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 地域人材の活用や企業の専門性を生かした学習を推進する。 ・上下水道局、税務署、(株)SUBARUなど、専門分野の企業、地域の企業等と連携した授業を計画的に行う。 ・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動を充実させる。 ・地域の「見守り隊」「自治体」「育成会」「老人クラブ」等との各団体との連携・協力を推進する。	【達成状況】 児童 89.6% 保護者 83.7% 地域 92.9% 【次年度の方針】 地域の「見守り隊」「自治体」「育成会」「老人クラブ」等との各団体との連携・協力を推進してきたので、おおむね数値指標の達成に近づいたが、地域人材バンクを作成し、さらに企業等の活用を推進する。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者・地域 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答90%以上	① 定期的な安全点検の実施により環境整備を図る。 ・施設・設備・器具・用具等の定期的な安全点検を実施し、点検結果に基づいた維持管理や改善を図る。	【達成状況】 教職員 100.0% 保護者 85.7% 地域 100.0% 【次年度の方針】 定期的な安全点検を実施し、危険箇所については、複数の目で確認をするなど、点検結果に基づいた維持管理や改善を図るようにする。

	A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 児童・保護者 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童 ⇒肯定的回答９０％以上 保護者 ⇒肯定的回答８０％以上	① ＩＣＴを活用した教育活動の充実を図る。 ・パソコン等の活用により、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報活用能力の育成を図る。 ② 学校図書館の学習センター・情報センターとしての機能の充実を図る。 ・学校図書館司書と連携し、学習に必要な図書を充実させるとともに、ＩＣＴ機器や学習に必要なスペース及び備品などを整備し、学校図書館を活用した主体的な学習を行う。	【達成状況】 児童 80.8% 保護者 63.0% 【次年度の方針】 数値指標が、児童・保護者ともに下回った。とりわけ、保護者の肯定的回答の割合が大きく下回ってしまっている。今年度は全学年とも学校図書館を活用して、必要な資料を準備し活用してきた。しかし、そのことが保護者に十分に伝わっていないことが考えられる。次年度は、学習の様子について懇談会で保護者に伝える等、活用していることを伝えていきたい。また、次年度はタブレットが導入されるので十分に活用していきたい。
本校の特色・課題等	B3（A27）児童は食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けている。 【数値指標】 児童 「わたしは、食事のマナーや習慣をきちんと身に付けて食事をするができる。」 保護者 「児童は、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けている。」 地域 「児童は、食事のマナーや食習慣をきちんと身に付けている。」 児童・地域 ⇒肯定的回答９０％以上 保護者 ⇒肯定的回答７０％以上	① 給食指導の充実を図る。 ・基本的なマナーを徹底して指導し、偏食指導、栄養指導、衛生指導の充実を図る。 ・交流給食を推進する。 ・食事のマナーや偏食については、保護者との連携を図り、共通理解のもとに連携して指導する。	【達成状況】 児童 88.1% 保護者 65.6% 地域 100.0% 【次年度の方針】 児童、保護者ともに数値指標を下回ってしまった。児童の食に関する正しい知識と望ましい食習慣についての保護者の意識調査を行い、必要な指導事項を明確にし、望ましい食習慣の定着を図る。学校での食育指導の内容について、各種たよりや学級懇談会を通して保護者に伝え、共通理解のもとで家庭と連携しながら指導していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体アンケートの結果、地域住民の回答は、９項目中８項目で肯定的回答が数値指標を上回ったのに対し、教職員の回答は８項目中４項目、保護者の回答は２２項目中３項目、児童の回答は２３項目中５項目しか数値目標を上回らなかった。しかし、それぞれの肯定的回答の割合を見てみると、教職員の回答で２８項目中１９項目、保護者の回答で２２項目中１１項目、地域住民で１３項目中１３項目、児童の回答で２３項目中２０項目において肯定的回答が８０％を上回っている。項目ごとの数値指標が、児童や保護者の実態に応じたものになっているか、見直しを検討する必要がある。

【学力向上について】

A1「児童は、進んで学習に取り組んでいる」、A18「教職員は、わかる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」の項目において、教職員、保護者、児童ともに肯定的回答が８０％を上回っていることから、学校での授業はおおむね良好に行われていると言えるが、全国学力テストや栃木っ子学習状況調査、学校でのワークテストの結果等を見ると、基礎学力の定着につながっているとは言えない状況である。B2「児童は宿題を含めた家庭学習を目標時間以上やっている。」の項目で教職員と保護者の肯定的回答が５０％程度であることから、家庭学習の内容や下校後の生活について改めて検討するとともに、保護者への協力の働きかけをさらに行っていく必要がある。

また、来年度より新学習指導要領が完全実施となり、「プログラミング学習」や「宇都宮学」の授業が開始される。教職員研修をしっかりと行い、指導体制を整えていく必要がある。

【特別支援教育について】

A13「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」、A15「教職員は、不登校

を生まない学級系経営を行っている。」の項目において、教職員、保護者、児童ともに肯定的回答が80%を上回っている。校内支援委員会やケース会議の開催により、かがやきルームの使用や別室登校指導、特別支援学級への入級指導等が組織的に行われた成果と言える。

【地域連携について】

A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。」の項目において、教職員、保護者、児童ともに肯定的回答が80%を上回っている。今後も、育成会や地域協議会の行事に協力して取り組むとともに、地域の企業と連携した教育活動を展開していきたい。

【児童指導について】

A3「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」、A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の項目では、教職員の肯定的回答が60%台となっている。今年度の取組に加えて、5つのきまりの重点指導月間の設定や、登校班長への挨拶指導など行い改善を図っていく。

【業務への取組について】

A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」の教職員の肯定的回答が85%であるのに対し、A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」の教職員の肯定的回答は75%であった。チームとして取り組むことを意図して校務分掌の見直しを図るとともに、教職員に対して「何時まで」「どこまで」などの個人目標を設定して業務に取り組むよう呼び掛けていく。

7 学校関係者評価

肯定的回答率を評価者別にみると、地域が一番高く、保護者が一番低くなっており、学校現場の教職員と児童はその間であると言える。学校の取組等について保護者に理解を求めたり、働きかけたりする必要があるときは、地域ができることをバックアップしていく。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校運営全般については、今年度の取組を継続していく。学習指導、生活指導については、今年度の反省をもとに検討した来年度の具体的な取組について全教職員で共通理解し、全教職員が同じ方向に向かって取り組んでいく。学校での取組について家庭や地域に積極的に情報発信を行い、地域の教育力を学校教育に生かしながら、家庭と連携して成果を上げていきたい。